

番号	意見の対象	意見の趣旨・論点	ご意見の概要（要旨）	ご意見への対応等	資料1-4 該当箇所
1	質問項目	力を入れて欲しい人権課題に関する設問の回答選択数の見直しについて	取組としてどういったところがまだ足りないかを調べるのであれば、選択肢を3つ選ぶのではなく、好きなだけ自由に選択できるようにしたうえで、どの項目が一番多いかを見てほしい。	取り組むべき人権課題を特徴的に捉えたいと考えているため、設問を下記のとおり修正する。 【修正前】 あなたが現在、県の施策で力を入れて欲しい人権問題は何か。以下の中から3つまで選んで○をつけてください。 【修正後】 あなたが現在、県の施策で特に力を入れて欲しい人権分野は何ですか。以下の中から5つまで選んで○をつけてください。	P.1
2	質問項目	力を入れて欲しい人権課題に関する設問の選択肢の内容について	いじめを人権問題とする場合、選ぶべき選択肢が難しいように考えられる。子どもを選択するといっても、大学生や高校生、社会人であっても対象となる可能性がある。	滋賀県人権施策推進計画に基づき取組を進めるため、選択肢は計画の分野別施策に合わせる形とした。	P.1,2
3	質問項目	力を入れて欲しい人権課題に関する設問のうち「アイヌの人々に関する人権分野」が選択肢にあることについて	アイヌの人々に関しては、大切な視点だが、唐突な印象がある。	滋賀県人権施策推進計画に基づき取組を進めるため、選択肢は計画の分野別施策に合わせる形とした。	P.2
4	質問項目	力を入れて欲しい人権課題に関する設問のうち「災害発生時の人権問題」の選択肢について	災害発生後の風評被害も、大きな問題であると考えられる。	・滋賀県人権施策推進計画における分野別施策の名称に合わせているため、このままの表記とした。 ・「災害時の人権問題」について問う設問の選択肢については、下記のとおり修正する。 【修正前】 3. 被災者に対する風評被害や誹謗中傷が発生すること。 【修正後】 3. 被災者や被災地に対する誹謗中傷や風評被害が発生すること。	P.2
5	質問項目	ハイトスピーチに関する注釈の見直しについて	ハイトスピーチは、宗教、性別などあらゆるものが対象となるにも関わらず、現状の注釈では外国人に対するもののみをハイトスピーチとしているように捉えられてしまう内容であることから、外国人に偏らない注釈とした方がよい。	ご意見をもとに、注釈文を下記のとおり修正する。 【修正前】 ここでいう「ハイトスピーチ」は、日本以外の特定の国の出身者やその子孫であることのみを理由に、地域社会から排除しようとするなどの不当な差別的言動のことを指します。 【修正後】 ここでいう「ハイトスピーチ」は、特定の民族や国籍だけでなく、障害者、LGBTなどの当事者といった様々な属性を有する人々を対象とした、貶め、差別・排斥などの言動を指します。	P.2
6	質問項目	ビジネスと人権に関する注釈の追加について	ビジネスと人権は一般的に通じる言葉なのか。何を指しているのか難しく思える。	ご意見をもとに、下記の注釈文を追加する。 ※「ビジネスと人権」とは、企業活動の中で、顧客、取引先、従業員など関わるすべての人の人権を尊重する考え方のことです。	P.2
7	質問項目	人権侵害を見聞した際の対応に関する設問の選択肢「何もなかった」の見直しについて	回答の選択肢で「何もなかった」とあるが、自発的に何もなかった場合の他に、他者からの圧力により何もなかったということも考えられる。	・設問の削除を検討したい。 ・設問を残す場合でも、自発的に何もなかった場合と他者からの圧力により何もなかった場合のどちらに対しても、県としての取組は同じものとなるため、「何もなかった」の細分化は行わない。	P.4
8	質問項目	子どもの人権に関する設問の選択肢「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」の見直しについて	回答の選択肢で「仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること」とあるが、学校現場ではSNSによる仲間外れが大きな問題となっていることから、「仲間はずれ」にSNSによるものも含まれていることを示してはどうか	ご意見をもとに、選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 1. 仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること 【修正後】 1. 仲間はずれや無視、悪口や暴力などのいじめがあること（SNSや動画投稿サイトなどのインターネット上で行われるものも含む）	P.5
9	質問項目	子どもの人権に関する設問の選択肢「教師による体罰や言葉の暴力があること」の見直しについて	回答の選択肢に「教師による体罰や言葉の暴力があること」があるが、「学校や就職の選択など」とあることで、場面が制限されているように見受けられる。日常における親や大人の過度な期待や過干渉といった問題もある。	ご意見をもとに、の選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 3. 学校や就職の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること 【修正後】 3. 大人が子どもの意見を尊重しないこと	P.5
10	質問項目	子どもの人権に関する設問の選択肢「教師による体罰や言葉の暴力があること」の見直しについて	回答の選択肢で、「教師による体罰や言葉の暴力があること」とあるが、現状、保育園や学童などあらゆる場所で子どもに対する人権が認められていないと考えていることから、選択肢に「教師」と書いてしまうと学校のみが対象となってしまうため、より広く捉えられる選択肢を考えて欲しい。	ご意見をもとに、選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 4. 教師による体罰や言葉の暴力があること 【修正後】 4. 教師、保育者、指導員などによる体罰や言葉の暴力があること	P.5
11	質問項目	子どもの人権に関する設問の選択肢「学校や就職の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」の見直しについて	回答の選択肢に「学校や就職の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」があるが、体罰や言葉の暴力といった言葉の表現では言い表せない、グレーな指導もあり、それが繰り返されると、日々の学校生活の中で積み重なることによって子どもはストレスを感じてしまい、またメンタルへの影響が学校にいる時ではなく後々に出てくるというエピソードもある。例えば「過度な校則や指導により、子どもらしい学校生活が送れない、または学校生活が妨げられる」といった選択肢を追加してはどうか。	ご意見をもとに、選択肢に下記を追加する。 ・過度な校則などにより、子どもらしい暮らしや学校生活が妨げられること	P.5
12	質問項目	SNSに関する注釈の見直しについて	現状ではYouTubeやTikTokがハイトスピーチとの関連が多くあるため、これらを例示に追加してはどうか。	・SNSという言葉が一般的であることからSNSに関する注釈を削除する。（意見13参照） ・問10「外国人に関する事柄」にかかる設問の選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 9. ハイトスピーチが行われること 【修正後】 9. ハイトスピーチが行われること（SNSや動画投稿サイトなどのインターネット上で行われるものも含む）	P.7
13	質問項目	SNSに関する注釈の省略について	SNSは普及が進んでいるため、その説明は省略しても良いのでは。	SNSという言葉が一般的であることから、ご意見のとおりSNSに関する注釈を削除する。	P.8
14	質問項目	感染症患者とその家族等の人権に関する設問の選択肢「感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」の見直しについて	次問の「新たな感染症」に係る設問に「感染者やその家族等に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」という選択肢があるが、これはエイズやハンセン病の感染者等にもあてはまるため、この設問の選択肢について見直しを行ってはどうか。	ご意見をもとに、選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 5. 差別的な言動をされること 【修正後】 5. 差別的な言動・いじめなどが行われること	P.7
15	質問項目	災害発生時の人権侵害に関する設問の選択肢「避難所などの運営が、特定の属性により行われ、他属性が適切な支援を受けられないこと」の見直しについて	回答の選択肢で、「避難所などの運営が、特定の属性により行われ、他属性が適切な支援を受けられないこと」とあるが、これはおそらく、男性目線に立っているということだと思われるが、この書き方ではイメージが湧かない。	・設問の削除を検討したい。 ・設問として残すのであれば、ご意見をもとに、選択肢を下記のとおり修正する。 【修正前】 特定の属性により行われ、他属性が適切な支援を受けられないこと 【修正後】 避難所などの運営が、成年男性の目線で行われ、女性などが適切な支援を受けられないこと。	P.11
16	質問項目	部落差別（同和問題）に関する注釈の見直しについて	部落差別（同和問題）に関する注釈について、日本固有の人権問題と記載されているが、そのように言い切っても良いのか疑問に思う。	国でも同様の解釈がされていることから、このままの表現とする。	P.11
17	質問項目	部落差別（同和問題）の表記の統一について	同和問題と部落差別の設問については、「部落差別（同和問題）」という表現に変えていくとあったが、設問項目の中には「部落問題」と「同和問題」が散見され、バラバラとしている印象がある。	項目のタイトルは「部落差別（同和問題）」とするが、設問中については、下記の整理で使い分け、注釈でも示す。 ・「部落差別」は出身地による就職差別といった具体的な差別的現象を指す。 ・「同和問題」は「部落差別」をなくすにあたっての社会全体の課題を指す。	P.11
18	質問項目	住宅を選ぶ際の考え方に関する設問の選択肢の表記の見直しについて	選択肢の「避ける」という表現は中立的ではないため、例えば「考慮する」に変えてはどうか。	ご意見のとおり、選択肢の表記を下記のとおり修正する。 【修正前】 ア 近隣に同和地区がある物件は避ける考え方 イ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる物件は避ける考え方 ウ 近隣に外国人住民が多く住んでいる物件は避ける考え方 エ 近くに精神科病院や障害者施設がある物件は避ける考え方 【修正後】 ア 近隣に同和地区がある物件であるか考慮すること イ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる物件であるか考慮すること ウ 近隣に外国人住民が多く住んでいる物件であるか考慮すること エ 近くに精神科病院や障害者施設がある物件であるか考慮すること	P.14,15
19	調査票	「子ども」の表記の仕方について	子ども家庭庁ができてから「子ども」という表記については、ひらがなの「こども」を使うよう統一されている。私たちの方でも、資料作成などの際にひらがな表記に変更させてもらっているが、これに関する県の考えはどうか。	滋賀県では「滋賀県子ども基本条例」のように「子ども」と基本的に表記しており、また、国の表記に合わせることは現時点では無いことから、本調査も「子ども」で表記を統一する。	P.1他
20	調査票	フェイスシートの性別欄の選択肢の表記順の見直しについて	性別欄の選択肢の順番については、「分からない」と「どちらでもない」を入れ替えた方がよいと思う。男性、女性、そしてどちらでもないとはっきりと言える方が選べるように左側にあって、まだ迷っている方が選べるように右側にあって選択肢を設けるといった県の意図があってもよい。	ご意見のとおり、選択肢の並びを下記のとおりとする。 1. 男性 2. 女性 3. どちらでもない 4. 分からない	P.16